



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.60 April 10, 2017

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。



英語のジョークを楽しむ会 10 周年祝辞

代表 宮本倫好



「遙けくも来たもの」という感慨が先ず浮かびます。10年前、「横浜時事英語クラブ」の例会で入会者を募りました。庇を借り、中心メンバーをスカウトしようとしたのです。豊田さん、佐川さんらも呼びかけ人になり、安藤さん、小池さんらが参加を表明されました。その他、「お笑い学会」から植田さん、長谷川さん、相原さんなども加わってくれ、コアメンバーが固まりました。当時の中心メンバーが殆ど不動というのが本会の誇りです。社会体験がまったく違う中高年のクラブとしては、これだけ成功裡に続くのは、異例ではないでしょうか。

その最大のポイントは押さえるべきところをちゃんと押さえ、気楽さを巧みにミックスしながら、アカデミックの意味でも高いレベルを保っていることでしょうか。その後もベテランと女性を含む新メンバーが個性豊かに交じり合い、「出席するのが楽しい」と感じる、いい雰囲気生まれています。

会報（佐川）、総務（植田）、総合的まとめ（安藤）、学術担当（豊田）、コンピュータ（中嶋）、出版企画（村井）らの皆さんが、組織をがっちり守ってくれています。小池さん、服部さん、草野さんらメンバーのユニークな貢献も、実に貴重です。

会の基本は「日本人に欠けるユーモア精神、その発露としてのジョークを英語で楽しむ」ということで、同時に英語力をアップさせ、言語文化の理解も深めるという趣旨は、実にすばら

しいですね。

日本人にも笑いがありますが、根が生真面目国民ですから、機知を効かせて大いに笑うという側面が不得手です。三島由紀夫著『美德のよろめき』を読むと、ウィットを全否定しているのに驚きます。「主人公の実家では笑い声は常だが、ウィットはますます希薄になる。上品な家族であればあるほどそうだ」といい、「機智には欠けるが、会話で育ちの良さを実感させられ、成り上がりものには絶対真似られぬ一定階級の特徴だ」と絶賛します。確かに皇室の会話で、ジョークやウィットが飛び交っている光景は想像できませんね。

そこで英語で **wit** に関する表現、語句を徹底的に調べてみましたが、悪い意味は皆無でした。いかに西欧世界では階級を問わず、**wit, humor, esprit**, などが日常生活で重視されているか、言語学的に証明された気がしました。

ナチス強制収容所の極限下での体験を綴った心理学者ヴィクトール・フランクル『夜と霧』を読むと、ユーモアの持つ強さを実感します。フランクルと友人のユダヤ人は、「毎日必ずジョークを一つ考えて披露し合おう」と約束して、解放されるまで、お互いに笑いで恐怖を克服し合ったといいます。何事も運命として甘受する日本人にはない、ユダヤ人の凄さですね。ユーモアは深く、世界は広いのです。





第60回研究発表会

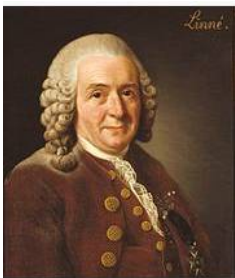
科学技術の進歩にまつわるエピソード その6

服部 陽一

6. 近代～(続) ー進化の未来は・・・ー

6. 進化論の先駆者たち

カール・フォン・リンネ (1707-78)



スウェーデン スモーランド生 聖職者の子 ウプサラ大学(卒業、教授) 分類学の父 二名法の体系確立(属名と小種名 ラテン語2語)

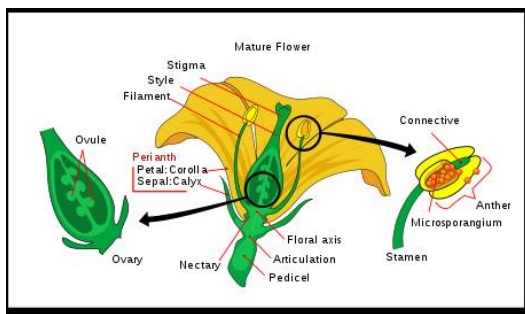
『自然の体系』1735 生物分類の体系化 哺乳類 mammalia 授乳する動物(人間の授乳の大切さを主張)

人間: homo sapiens

チンパンジー: homo troglodytes

プレアダム人の存在を認める

『植物の種』1753 植物の分類と学名の確立 「植物の分類の基礎は花のおしべの数にある」



おしべとめしべの研究図

教会からの弾圧 異端裁判 カトリックへの強制改宗 自説の撤回 ホブズ、スピノザと並んで「悪の三大頭目」の烙印 スウェーデン国王 アドルフ・フレドリック リンネを貴族に叙す(1757)



1735-40 頃のリンネ



おしべが特徴的な花

ロンドン・リンネ協会設立 分類学、博物学研究機関(1788)

皇太子明仁親王(今上天皇) 名誉会員に登録 魚類学への貢献(1986)

ジョルジュ＝ルイ・ルクレール・ド・ビュフォン (1707-88)

フランス モンバール生 デイジョン、モンバール領主の子 博物学、数学、植物学 フランス王立植物園長



『一般と個別の博物誌』36巻 1749～1778



◀地球の理論の証明のページ

人類と類人猿との共通の祖先、動物の進化について

(初めての進化思想)

地球の過去および未来 地球の生成は、鉄の冷却時間から推定して74,800年前(教会の説は紀元前4,004年が天地創造の時期) ソルボンヌ大学神学部からの圧力で自説を撤回



国立自然史博物館 (パリ自然誌博物館)

QUOTES & JOKES

- * What does DNA stands for?
National Dyslexia Association.
Dyslexia:言語障害
- * What is the fastest way to determine the gender of a chromosome?
Pull down its genes.
chromosome=染色体 genes⇒jeans
- * A huge paradox in Homo sapiens: Noses run and feet
(smell)
- * At NIH(National Institute of Health), there is a sign on the door of microbiology lab that reads “Staph Only!”
microbiology=微生物学 staph=staphylococcus (ブドウ球菌)

エラズマス・ダーウィン (1731-1802)

『生命の法則』(Zoonomia, or, The laws of Organic Life) 1794~1797

単純な生命から複雑な生物への進化、性選択
「生物のもつ目的意識が生物を進化させる」

ジャン=バティスト・ラマルク

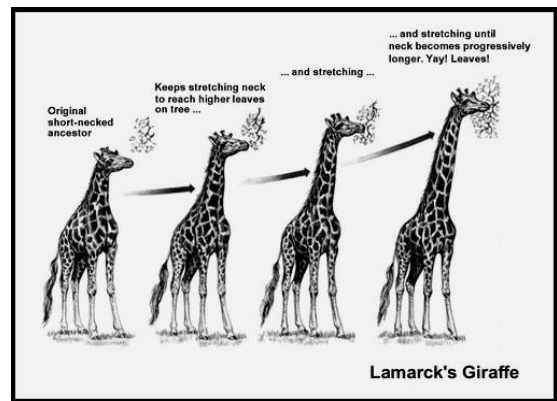
(1744-1829)

フランスブルボン朝下級貴族・軍人の七男(11人の末子) 神学校から17歳で軍人に 王立植物園に通って植物学を受講 園長のビュフォン

に認められ 陳列館主任に (1789 - 45 歳) フランス革命で王立植物園解体 パリ自然史博物館の教授に しか



し、動物学の昆虫学・蠕虫学にまわされる 一未開の分野を解明<無脊椎動物> <biology> — (2002 年シドニーブレナー 蠕虫 C. エレガンスの研究でノーベル賞受賞) 講義開始 (50 歳から) 受講生にオノレ・ド・バルザック、サント・ブーヴ 「常に重大問題を提起する講義は、情熱的で聴く者を惹きつけた」 バルザック 『動物哲学』1809 進化論を体系化、生命論、感覚論など 『無脊椎動物誌』7 巻 1815~1822 生命論、進化論 生命の自然発生説、諸器官成長機能 (要不要説)、獲得形質の遺伝



ラマルクのキリン進化の想像図

「高い位置の木の葉を食べようとするキリンは首を伸ばして木の葉を食べる。その必要性がキリンの首をわずかに伸ばす。この変化が何代も続いて今のようなキリンになった。」 生物学会の権威キュビエがラマルクの思想、方法論を激しく攻撃



◀木に登るキリン
(進化の成果?)

パリ大学教授を辞任
その後失明 死去(85
歳) 遺骨行方不明

キュビエがラマルク讃辞を編纂(内容はラマルクを徹底的に非難)協会事務局が発表を躊躇っているうちにキュビエ死亡

ルイ・パスツール (1822~1895)



フランス 皮なめし職人の
子 近代細菌学の祖(乳酸菌
の発見、炭疽菌、狂犬病の
ワクチン)「発酵や腐敗は微
生物によって起こる。生物
は自然発生しない。」

白鳥の首フラスコ(パスツール瓶)による実験
<煮沸した肉汁は遮蔽されたフラスコ内では腐敗することはない>



白鳥の首フラスコによる実験

QUOTES & JOKES

* Dans les champs de l'observation le hasard ne favorise que les esprits prepares. — Louis Pasteur
(In the field of observation, chance favours only the prepared mind.)

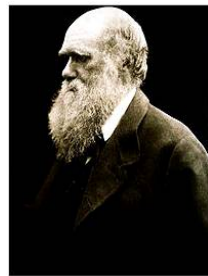
(In the field of observation, chance favours only the prepared mind.)

* Biology is the only science in which multiplication is the same thing as division.

Multiplication は「増殖」、Division は「(細胞) 分裂」

7. 進化論の構築

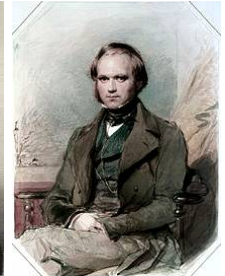
チャールズ・ダーウィン (1809-1882)



晩年



6 歳



30 歳頃

イギリスシュールズベリー生 エラズマスの孫 医師の家系 エジンバラ大学医学部中退 ケンブリッジ大学神学部編入 海産動物の研究、カブトムシの採集、博物学に没頭

英国海軍測量船 HMS ビーグル号に博物学者として乗船(1831~1836) 南米・豪州・南太平洋を航海 動植物・地質を調査
携帯図書: 地質学原理(ライエル)、南米紀行(フンボルト)、失樂園(ミルトン)



ビーグル号の航跡

ガラパゴス諸島での観察(航海4年目)

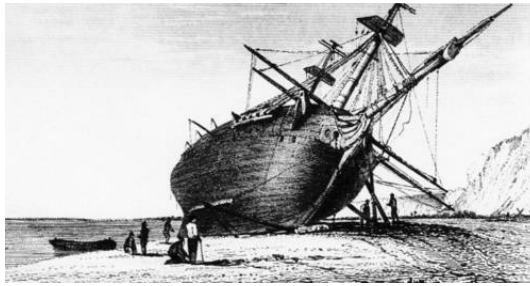
フィンチ、ゾウガメ、イグアナなどを観察して進化の仕組みを確信

フィンチ: 13 種類を採集 生活環境によって体型、嘴の形状が異なる

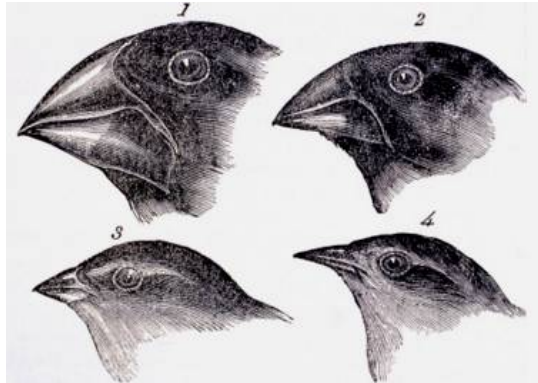
ゾウガメ: 甲羅の形状 鞍型、ドーム型

イグアナ: ウミイグアナ、リクイグアナ

『HMS ビーグル号航海記』(1837) に詳述、人気作品となる。



座礁したビーグル号



フィンチ（生息する島によって形状が異なる）



群がる海イグアナ

進化論のまとめ作業（1842～）

マルサスの『人口論』から生物界の生存競争の原理、適者生存を着想 しかし、構想が大きすぎて纏まらず長らく逡巡

アルフレッド・ウォレスからの手紙 探検中のマレー諸島から届く（1856）ダーウィンと同じ生物進化の思想に衝撃を受ける「私が20年以上考えて迷っていたことを・・・」進化論研究の優先権を、ウォレスに譲ることを決心

リンネ協会で発表（1856.7.1）友人ライエルとフッカーの尽力で、ダーウィンとウォレスの理論を共同発表 2人は出席せず、ライエルが朗読 ダーウィンは執筆中の著作を中止し、自説



◀共同発表の記念メダル

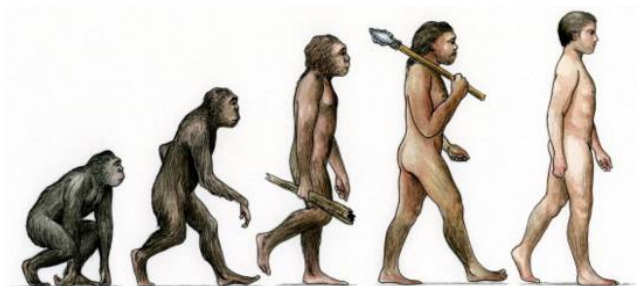
のアブストラクトを纏める（～1859）⇒『種の起源』
On the Origin of Species by Means of Natural Selection

生存競争による適者生存を通しての自然選択 突然変

異による偶然の変化

「個体のばらつきの中で、少しでも首の長いキリンが高い位置の木の葉を食べるのに有利である。その環境の中では、そうした特長を持つ個体が生き残る確率も、子孫を残す確率も高い。このような選択を重ねるうちに、やがて今のようなキリンが生まれた。」

<進化論を確立する不朽の古典>



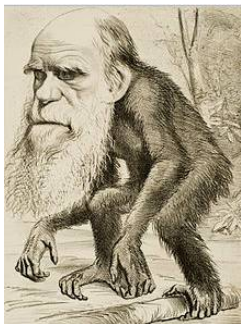
ヒトの進化の想像図

CHARLES DARWIN'S QUOTES

- * It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent but the one most responsive to change.
- * A man who dares to waste one hour of time has not discovered the value of life.
- * If the misery of the poor be caused not by the law of nature, but our institutions, great is our sin.
- * Man is descended from a hairy, tailed

quadruped, probably arboreal in its habits.

- *I have tried lately to read Shakespeare, and found it so intolerably dull that it nauseated me.
- *Ignorance more frequently begets confidence than does knowledge: it is those who know little, and not those who know much, who so positively assert that this or that problem will never be solved by science.
- *A man's friendship are one of the best measures of his worth.
- *In the long history of humankind (and animal kind, too) those who learned to collaborate and improvise most effectively have prevailed.

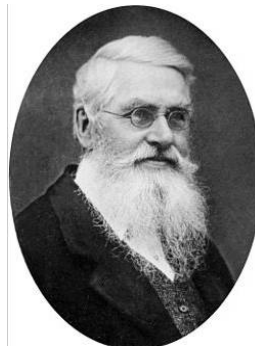


◀ダーウィンを揶揄する風刺画



クジラの進化?

アルフレッド・ウォレス (1832~1913)



ウェールズ生 13 歳で学校中退 測量士の兄と旅行 ダーウィンの『ビーグル号航海記』に触発されアマゾンを探検 マルサスの『人口論』を読み、自然選択理論を着想 探

検中のマレー諸島からダーウィンに小論文を送付 「私の考えに発表する価値があるようでしたら、仲介の労をお取り頂きたく、よろしくお願ひ・・・」

『ダーウィニズム』(1889)

進化論の先取権はダーウィンに譲る 自説を取り入れた理論を、ダーウィンの没後に発表、潔さが賞賛される

人間の進化について「人間は特別な進化をしている。未開人の脳と文明人の脳の大きさは変わらない。しかし、類人猿と比較すると決定的に大きい。」

例外的な進化、精神の進化が起こったのではないか・・・⇒心霊現象の研究へ

明仁 (今上) 天皇の基調講演 リンネ協会にて 2007.5.29 リンネ誕生 300 年記念祝賀行事に招待されての英語によるスピーチ

<http://www.kunaicho.go.jp/e-okotoba/01/keynotespeech-2007e.html>

「今日はリンネの業績をしのび、リンネの弟子で日本のオランダ商館の医師として 1 年間日本に滞在し、『日本植物誌』を書いたツェンペリーなどにふれつつ、欧州の学問がいかにか日本で発展してきたかということをお話したいと思います。・・・リンネが創始した二名法の学名は、世界共通の動植物の名称として、今

日、学会はもとより多くの人々によって使われています。・・・」

その後、リンネが多くの日本の植物に学名をつけたこと、ツェンペリーとドイツ人ケンペルが日本の西洋医学や科学の発展に貢献したことを強調。また、日本で平瀬作五郎がイチョウの精子を発見、池野成一郎がソテツの精子を発見したこと、ケンペルが描いた図を基にリンネがイチョウの学名を付けたことなどを紹介。さらにご自身の研究成果についてもふれ、最後に...

「ここリンネ協会においてダーウィンとウォレスの進化論が世に問われ、生物の系統という思想が学問の世界に取り入れられたのは、リンネから 100 年後のことになります。終りに当たり、リンネ協会のこの度のご招待に改めて感謝の意を表し、リンネ協会の一層の発展をお祈りします。」

2008年日本人ノーベル賞受賞者 同一年に日本人 4 人の科学者の受賞は異例の快挙 物理学賞:南部陽一郎、小林誠、益川敏英 化学賞:下村脩

8. 進化によって獲得した動物たちの知恵 —利他行動など—

・シマウマは天敵を見張る役割を受け持つ個体がいる。ライオンなどが現れると、警告音を発し、群れを逃がす。自分が囮として犠牲になることもある。

・母を失った子ライオンに、他の雌ライオンが授乳して育てる。

・吸血コウモリは鳥や哺乳類の血液しか食料に出来ないが、吸ってきた血液を、ねぐらとともにする別のコウモリに分け与える。

・カマキリのオスは交尾の後（または交尾の最

中）にメスに食べられる。相手のメスと生まれて来る子供のための栄養になっている。

・アメーバはうまく分裂できないことがある。そのときは、化学物質を放出して助けを求め。近くにいるアメーバがやって来て、中途半端に分裂して困っている個体に自分の体を挿入して分裂を完成させる（アメーバの「助産婦行動」）。

・アリの社会行動

地球上で最も個体の多い動物（バイオマス 15~20%）。多種のフェロモン。

道標フェロモン:餌を見つけた個体が行き帰りの道筋に残す。他の個体がこれを辿って餌に辿り着く。真面目なアリはこの道に沿って餌を運ぶ。いいかげんなアリが列から外れて別のルートを見つける。この方が近いと自然にルートが変更される。このいいかげんなアリの存在は欠かせない。

働きアリ: 60~70%は働いていない。巣が襲われるなどの緊急事態に備えた予備軍として待機している。また大量の餌を発見した時などには出動する。働いているアリの巣から除去すると、全体の 30~40%のアリが働き始める。働きアリはすべてメス。

QUOTES & JOKES

* What do you call a very old ant?

Antique.

* What is the biggest ant in the world?

An elephant

* What kind of ant is good at calculation?

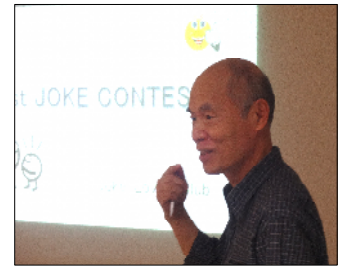
Accountant.



(続く)

第 35 回ジョーク・コンテスト

MC の記 棚橋 征一



今回の MC は、体調を整えて必ずやりとげなくてはどの気持ちで対応しました。と申しますのは、昨秋開催された 34 回の MC をお引き受けしておきながら、寸前に体調を崩して入院するハメとなり、急遽、佐川会員のお取り計らいで相原会員にリリーフをお願いした経緯があったからです。無事に終えることができ、ほっとしています。

今回は合計 18 点の応募があり、いつものように 2 回の投票を合算した結果、1 位には断トツで植田会員（出品 #6 : Confidence と Confidential の違い）が選ばれました。2 位には佐川会員 (#3: 直線走りをする男の事情) が、そして 3 位には小池会員 (#4: 一人っ子の質問) および相原会員 (#18: Mistress の定義) が同点で選ばれました。いずれの入賞作も事前に目を通した段階で大変気に入っていたので、極めて納得のいく結果でした。

今回は時節柄、トランプ大統領に関連する出品が 3 件ありました (#5、#7 および #13)。このうち、#5 は出だしの一文 “Remember President Trump was teased for having small hands?” が何を意味するのか判らず、意見が交わされました。最後に三田会員から「選挙戦中に Trump が、共和党の対抗馬 Marco Rubio から、手が小さいことを揶揄されて話題になりました」とのご指摘があり、一遍に疑問が氷解しました。後で Net 検索してみたら、Rubio implies Trump’s private parts are

substandard, telling supporters, “You know what they say about men with small hands.” との説明が載っており、やはり海外の時事ニュースもきちんとキャッチしておかないと Punch Line を読み解けないなど、反省した次第です。

2 つ目のトランプがらみの出品 #7 は、選挙戦を通じて “America First” と並び、トランプの公約スローガンであった “Make America Great Again” の精神に則って、余生を充実させようという岡田会員の意欲が伝わってくる内容でした。

3 つ目の出品 #13 は、時事用語になった観のある形容詞 alternative を使って、トランプが自分の extramarital romance を釈明する内容でした。よく知られているとおり、トランプ大統領は自分の就任式当日、ワシントン DC に集まった聴衆の数が過去最大であったといいつのり、スパイサー報道官も公式にその旨を発表しました。ところが記者団から問い詰められると、ケリアン・コンウェイ大統領顧問がスパイサーの言ったことは alternative facts であると抗弁して有名になりました。

米国人の友人達はトランプをどう評価しているのだろうか、数名に当たってみたところ、東部で IT コンサルをしていた男性からは、“The President is a corrupt narcissistic bully who has no moral values and no

vision or strategy.”との酷評がきました。米国メディアはトランプ内閣の特長を 3G's (Goldman, Generals and Gazillionaires) と評しているそうですが、果たしてどれだけ sustainable な政権を維持できるのか、興味津々です。

どうぞよろしく =新入会員ご紹介=

田山映夫 (たやま・はゆお) さん

(東京都杉並区久我山 [伊賀上野から出てきました])

1. 私にとってジョークとは:

It is enjoyable for me to listen to English jokes, but very hard to make new ones.



2. 私の好きなジョーク:

When the prime minister met Clinton, he mistakenly said, “Who are you?” Mr. Clinton was a bit shocked but still managed to react with humour: “Well, I am Hilary’s husband, ha ha ha...” Then, the prime minister replied confidently “Me, too, ha ha ha...” Then there was a long silent moment in the meeting room. (宮本会長の『笑うネイティブ』116頁より)

謹告

本会のホームページは、2017年2月末をもって廃止されました。会報のお届けや、会員諸姉兄へのご連絡は、ヤフーメールにて事務局より皆さまのお手元に、直接発信いたします。なお、これまでホームページに掲載されてきたすべての情報は、USBに収納し、事務局に保管してあります。会報のバックナンバー等を必要とされる方は、右の連絡先までお申し込みください。

第61回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちいたします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時: **2017年5月20日(土)**
14:00~16:00
 - 会場: 日本近代文学館 (2階会議室)
(東京都目黒区駒場 4-3-55、駒場公園内)
電話: 03-3468-4181
 - 交通: 京王井の頭線「駒場東大前」駅(渋谷駅から二つ目)下車徒歩約7分。
 - プログラム
司会=安藤雅彦会員
① 研究発表 草野淳会員
“Goodbye to Headline Jokes”
② 第36回ジョーク・コンテスト
MC=吉川裕子会員
- 参加費: 会員・非会員とも 1,000円
連絡先: jlcweb-renraku@eigojoker.com

第36回ジョーク・コンテスト出品募集

1. 語数は、**30 WORDS** を上限とします。
 2. 出題数はお一人一題までとします。
 3. 出品されるジョークは、かならずしも自作のものである必要はありません。
 4. 必要と思われる場合には、注釈・イラスト・写真などを添えてください。
 5. コンテストの結果は、2017年6月10日送信予定の、We, Jokers No.61 紙上でも発表されます。
- 宛先: jlcweb-renraku@eigojoker.com
 - 締め切り: **2017年5月7日(日)**

WE, JOKERS No.60

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

- 発行日: 2017年4月10日
- 発行人: 世話人代表 宮本倫好
- 編集人: 佐川光徳
- 連絡先: jlcweb-renraku@eigojoker.com